

～『志』・季・折・々～

市内の美しい風景や、歴史・文化を感じさせてくれるもの等を写真でご紹介します。読者の皆様からの写真のご提供も、お待ちしております。

【今月の1枚：頭を垂れる稲穂と夏の空】

短歌（南船志布志短歌会）

会うたびに観音のごとく微笑みて南海師佛をおろがみまつる
 さくら木の本漏れ目を浴び居眠りする老犬は「空」我に似ている
 過ぎ来たる添わぬ相性五十年そそぐ新茶も無言のひととき
 夜が明けた臉が開いたおむつが濡れてるこの現実を命と思ふ
 枇榔樹の枯れ葉の一本裸木に落ち来て八日裸木芽ぶく
 紫陽花の花のふくらみ去年の位置多様多彩に梅雨をむさぼる
 山荘のいで湯に浸かり罔らずも窓に覗きぬ十六夜の月
 夕闇に「白きダチュラ」の灯るがに植えたる亡夫の瞬のまぼろし
 散り終えしつじの剪定仕舞いつつ一握花がらままごととも無し
 露天ふる輪を広げいる雨たれよ湯舟賑わう心癒しむ
 一陣の風はなびきしその後はそれぞれのままに木々のゆれ居り

暉峻 康瑞
 池ノ上一枝
 川井田登志子
 林 静子
 平川 澄子
 益倉 睦美
 松下 芙美
 宮原 順子
 山田 和子
 山元ハツミ
 若松田鶴子

川柳（志布志川柳会）

肩もみの孫の駄賃は 高くつき
 ゴタゴタで 家はガタガタ 嫁逃げる
 ガタガタときしむ雨戸の 風の夜
 借金が 済む頃家は ガタガタに
 何につけガタガタぐるるタコおやじ
 へそ曲がりガタガタ言つて輪を乱し
 ガタガタを言わずに済ます老いの知恵

末永 一雄
 高田 秀雄
 赤池 忠重
 上東マキエ
 内山 幸夫
 高田 昭秋
 江藤 房子

短歌（はなさい短歌会）

まぼろしの蕎麦の花散る海面の飛沫をまとい飛魚の舞う
 八月は何故か空しも山里の緑目にしむ終戦記念日
 ふるさとの杜を彩る六月灯童心かえる今宵ひととき
 盆近し黄泉の国より歩み来る精霊たちのひそひそその声
 短調と長調の調和完璧に脳裏にうかぶ《長崎の鐘》
 敗戦無言のささやき聞きたらん ますらを逝きてたわやめ逝きて
 あかあかとカンナの花は暑さよぶ工事現場の側らの道
 神さか木自然の恵み満身にすくすく伸びる森林の黙
 本能に育ちゆくもの桃色の毒を吐きつつ爽竹桃は太る
 早天の日照りを冷ますへチマ水指の隙間に子規の幻影

南 史郎
 牧 愛子
 内山 幸夫
 渡辺クミ子
 篠田 紀子
 中園 茂甚
 江蔵 成子
 東郷ミイ子
 日高 禎子
 西 恭子



Japanese Poem of 31syllables
 *Haiku Poem*Comic Haiku*